

ダラスのワーキング女子ヘールを！

～JCWのマンスリーメッセージ～

用心、準備、安心

去年、領事館で開催された安全対策連絡協議会についてお話ししましたが、その第二弾が先日開催されました。今回も非常にためになる情報をいくつかいただいたので、皆さんと共有したいと思います。

最近の日本国内の報道を見ていると、タイとミャンマーの国境付近で、多くの人々が特殊詐欺に加担させられているというショッキングなニュースが伝えられています。こうした犯罪に巻き込まれないために、そして万が一トラブルに直面した際にも冷静に対応できるようにするため、各国の領事館ではさまざまな安全対策や注意喚起が行われています。今回の協議会では、米国領事館から、安全確保のための基本的な三原則が示され、それに基づいた具体的なアドバイスが共有されました。

まず第一に、目立たないこと。これは防犯対策として非常に重要な原則です。必要以上に派手な服装や高価な装飾品を身に着けていると周囲から目立ってしまい、犯罪者にとって格好のターゲットになってしまふ可能性があります。特に海外では、経済的に裕福な印象を持たれることが犯罪被害の引き金になることもありますので、服装や持ち物は、その日の予定や目的地、時間帯に応じて適切に選ぶことが勧められています。地味で落ち着いた装いを心がけることで、不必要なリスクを回避することが可能です。服装や持ち物は、その目的、場所、時間帯に応じて慎重に選ぶことがおススメのことでした。次に、行動を予測されないようにすること。通勤や通学など、日々の生活リズムや移動ルートがパターン化すると犯罪者に行動を読まれやすくなってしまう、狙われるリスクが高まるそうです。時間帯や経路を時折変えるなどして、不規則な行動をとるよう心がけるのがいいですね。そして最後に、用心を怠らないこと。現地での生活に慣れてくるとつい油断してしまいがちですが、思わぬ事故や犯罪に巻き込まれることがあり

ます。日頃から地域の治安や交通に関する最新情報を収集し、警戒心を持って生活することが大切です。

実際、行動がパターン化していたために空き巣の被害に遭ってしまったという方もいるそうです。アメリカでは、アジア人は銀行ではなく自宅に現金や資産を保管していると考える人も多いそうです。それってホントのところどうなの？日本人は必ずしも当てはまらないんじゃない？とも思いますが、アメリカ人にとっては日本人もアジア人の一部。私達も用心が必要です。

犯罪グループは、まず被害者を尾行して自宅を特定し、その後自宅周辺に小型カメラを設置したり、ドローンや車のトラッカーを使って行動パターンを把握することもあるそうです。更に、ホームセキュリティのようなサービスを契約している家であっても、電源やケーブルを切断して警報装置が作動しないようにし、人目のつかない裏口などから侵入するケースもあるそう。怖いですねーこのような犯行に対して、私達はどう対策すればいいのでしょうか。まず、多額の現金は自宅に保管しない。もしくは簡単に持ち運べないような重い金庫に入れる。週に一度は自宅周辺を点検して、不審な物がないかを確認する。ホームセキュリティの機器には予備のバッテリーを備えておく。屋内の照明は自動点灯ができるタイマー機能などを使い、長期不在時でも人がいるように見せかける。裏口などの施錠を徹底する。隣人と協力し、不審な人物や車両があればお互い情報を共有する。可能であれば番犬を飼う（でも番犬が犯人に尻尾を巻いて逃げてしまったら意味がない？）実は私の同僚も、まさに前述の手段で空き巣に入られたことがあると言っていました。どうやら毎日同じルーティンの行動を繰り返していたそうです。たまにはあえて異なるルートを通るなどして、日々の行動を意図的に変えるのも効果的かもしれません。最近私は私もときどき通勤ルートを変えて、パターン化を避けるようにしています。

今回の協議会では、JCCの担当者による銃撃事件対応の安全講習もありました。銃撃事件といえば学校での発生が目立ちますが、実際には6割以上が職場で起きているそうで、しかも平均し

て3分以内に終わってしまふというデータも紹介されました。場所がどこであれ、短時間で適切な行動を取ることが命を守る鍵となりそうです。

とにかくまず大切なのは、反応を早くすること。そのためには日頃から訓練しておくのが理想的です。例えば、外で破裂音がした際に「花火かなー」などと自己判断せず、「銃声かもしれない」と考えて、適切な行動に移るとか。訓練ではできていても、実際に犯罪現場にはまってしまうと極度のストレス状態となるため、思考も運動も通常通りには機能しません。スマホの緊急ボタンがあっても、611にかける操作すら頭に浮かんでこないかもしれないので、注意が必要です。不幸にも事件に遭遇してしまった場合、まずはできるだけ早くその場から逃げることです。そのためには、どの建物でも日頃から出口を確認しておくことが重要です。どうしても逃げられない場合は室内に隠れ、鍵を閉めて明かりを消し、スマホの音も切って発見されないようにします。もし見つかったしまった場合は、可能な限り銃撃を防ぐために戦う覚悟が必要になることもあります。とはいえ、できる限りそのような状況は避けたいものですが…。警察が現場に到着した際には、何もせず指示に従い、手のひらを見せて低姿勢を保つことが求められます。セルフディフェンストラainingなどでもいいですね。想定シナリオをもとにしたイメトレをするだけでも違いが出ます。難しい場合、は銃撃事件を想定し、行動をシミュレーションするだけでも効果があります。また、幼い頃から訓練を始めることで、事件への反応を早める効果もあるそうです。そういう例えば小学校三年生の我が娘も、先日ロックダウン避難訓練を受けていました。昭和の日本で育った私からすれば、校舎の外に逃げるのではなく、中に立てこもる訓練があるということに、最初は驚きました。でも、これが今の現実なのだと思います。

以上、今回の安全対策連絡協議会の内容が、皆さんの安心・安全な生活に少しでも役立てば幸いです。

プロフィール

JCW(Japanese Career Women)

2018年に発足した、ダラスに本拠地を置くNPO法人。ダラス、そしてアメリカ・日本・海外で働く日本人女性やワーキングマザー、学生達を応援し、ネットワークの場を提供するため、毎月様々なイベントを主催している。

メールアドレス: dcjcwomen@gmail.com
ウェブサイト: jcw-shines.org